

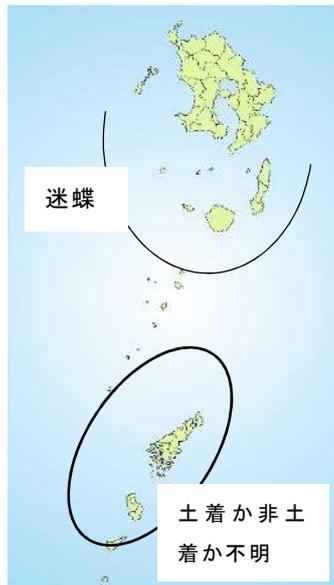
## 鹿児島の昆虫 80 「指宿市で冬を越したアオタテハモドキ」

昆虫担当 中峯 浩司

アオタテハモドキは、国内では奄美諸島を越冬北限とするタテハチョウ科のなかまです。オスもメスも羽に目玉模様があり、オスの後羽が青く輝く美しい蝶です。背の低い草地を好み、地表に羽を広げて止まったり、地表すれすれに素早く飛んだりします。移動性が高く、季節によっては分布域から遠く離れた日本本土でも見られる、いわゆる「迷蝶」として知られています。近年、アオタテハモドキの分布域に北上の兆しがあるので紹介します。

## 1 アオタテハモドキの分布

沖縄では土着しています。土着とは卵、幼虫、蛹、成虫のいずれかが一年中見られ、そこに住みついている状況です。奄美諸島に土着しているかは不明で、それより北では迷蝶となります。



## 2 近年の記録増加

近年は迷蝶としての確認例が増え、春先に新鮮な個体が見つかるなど、越冬を示唆する記録も出ています。次は各地における近年の記録の一部です。

## &lt;屋久島&gt;

2016年9月～12月、14頭採集

2017年8月～12月、11頭採集、ほか前年をはるかに上回る個体を目撃

2018年3月～11月、多数採集または目撃

2019年1月14日、1頭採集、ほか1頭目撃

以上の記録から、屋久島では2018年～2019年にかけて冬を越した可能性があります。

## &lt;種子島&gt;

2023年11月23日、西之表市、多数目撃

2024年1月8日、南種子町、幼虫1頭採取→鹿児島市で飼育→2月18日オス羽化

2024年3月30日、西之表市、5頭採集・ほか多数目撃

以上の記録から、種子島では2023年～2024年にかけて冬を越した可能性があります。

## &lt;県本土&gt;

2023年9月24日、南さつま市、4頭確認

2024年5月9日、いちき串木野市、1頭目撃

県本土では、夏～秋に記録されることが多く、5月の記録は珍しいと言えます。

## 3 ついに指宿市で越冬個体を確認

県本土では初めて、冬を越した幼虫が春に蛹化し羽化に至ったと思われる成虫を、筆者が発見しました（下の写真）。

2025年4月4日、国民休暇村で1オス写真撮影（縁毛はわずかに欠けあり）、中峯浩司

〃 4月7日、国民休暇村で1メス写真撮影（縁毛は完全）、中峯浩司



アオタテハモドキ(上:オス, 下:メス)

アオタテハモドキが県本土に定着するのかたいへん興味深いです。特に晩秋や早春に本種を採集・目撃した際には、ぜひ県立博物館に情報をお寄せください。